

<目的> 鍋島家の服飾遺品調査の折、白綸子地紗綾形団扇花束模様小袖夜会服が初公開され、日本ではこれまでに和洋合一の未見のドレスであった。しかし、そのドレスは損傷がひどく修復が不可欠な条件であった。初めてN氏によって修復された結果はオリジナルとは異なるものであった。その時点で原形復帰するために再修復の必要から本研究室に要請があり、実施することになった。

<方法> 再修復では空ビーズ・フリンジの原形復帰が第一条件になり、技法上から編み上げに要する道具を案出し、空ビーズの特注など試作を通してオリジナルの写真・記録をもとに再修復を行った。

<結果> 洋服関係の遺品をはじめ貴重な資料を修復する公的機関の必要を強く認識した再修復後、1983年5月7日～6月12日、「佐賀の百年」展（佐賀県立博物館）に初公開したのち、1991年10月から1992年1月まで「Japan and Britain: An Aesthetic Dialogue 1850-1930」展（ロンドン 市立バービカン・アート・ギャラリー）に出展した。更に1992年2月8日～3月22日「Japanと英吉利西、日英美術の交流（1850-1930）展」（世田谷美術館）、1994年4月5日～6月19日「モードのジャポニスム」（京都国立近美術館）にも出展された。